

ジイジ・バアバ、
パパ・ママへ贈る

心 の め ば え

アヤと過ごすジイジの日記

<31>

著者／牟田 泰三
挿絵／橋本 礼子

5歳7カ月

雨の日の太陽

ある休日の朝、あいにくの雨である。ママのお仕事の都合で、アヤはバアバのところに預けられることになった。やって来たアヤはいきなり

アヤ「バアバ、雨の日は太陽はどこに行ってしまったの？」

唐突な質問にバアバは虚を突かれて答えずに窮している。困ったバアバはいつものようにバアバ「ジイジに聞いてごらん」

と、ジイジにたらい回ししてきた。

ジイジ「お日様はね、いつものところにいるんだよ。今日は雨が降るくらい厚い雲があるから、お日様は見えないんだけど、雲の向こうにいるんだよ」

ジイジの説明があまりうまくないのか、アヤは「どうも納得していないようだ。」

アヤ「夜は太陽はいなくなるって聞いたよ」



そういえば、だいふ前に、アヤと二人で、山の端にかかる夕日を眺めながら

ジイジ「太陽は夜には地面の下に行っていて見えないんだよ。だから夜は暗いんだ」と教えたことがあった。アヤとしては、そのことから考えて、雨の日に太陽が見えないのは、

どこかに行っているせいだろうと考えたとしてもおかしくはない。太陽がどこにも行っていないことを、幼児でも分かるようにちゃんと説明してやるべきなのだ。

ジイジ「お日様は雲の向こうにいるんだよ。だから、お日様の光が雲を通してやってきてまわりが明るんだよ。夜とは違うんだよ」

納得してくれたかなあ。納得できなくてもいいんだ。納得できなかつたら、自分で考えればいいのだから。

ジイジ「今度ね、晴れた日に雲が出てきて、お日様を隠すのを見てみようね」

ジイジの 気付き



幼児と話をするとき、しゃがんで同じ目線で話をする。それと同じで、心の理論も幼児目線で適用すべきなのだ。

ジイジへのお便り

エッセーを読んだ感想などを、お寄せください。
weekly@pressnet.co.jp
「心のめばえ」係へ

「心のめばえ」のバックナンバーは、牟田のホームページでも読むことができます。下のQRコードをスマートフォンなどで読み取ると簡単にアクセスできます。



プロフィール むた・たいぞう 1937年、福岡県生まれ。九州大学理学部卒業、東京大学大学院物理学専攻修了、理学博士。京都大学助手・助教授、広島大学教授・学長、福山大学学長などを歴任。主な著書に「語り継ぎたい湯川秀樹のことば」(丸善出版)、「電磁力学」(岩波書店)、「量子力学」(裳華房)などがある。東広島市在住。